ナルコティクス アノニマス

NARCOTICS ANONYMOUS

関西エリア ニュースレター

Vol. 26

ナルコティクスアノニマスとは ―― 2
イッチー ―――――――――――― 3
コウジ ―――――――――――― 5
サトシ ―――――――――――― 8
なほ ―――――――――――― １０
ジョー ―――――――――――― １２
なおみ ―――――――――――― １４
補足と連絡先 ―――――――――― １６

ナルコティクス アノニマス（NA）とは

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

ナルコティクス アノニマス(ＮＡ)は、薬物依存からの回復を目指す薬物依存者(ドラッグアディクト）の、国際的かつ地域に根ざした非営利的な集まりです。ナルコティクス アノニマスが提供している何よりも大切なサービスは、 NA グループが行っているミーティングです。ミーティングでは薬物依存（ドラッグアディクション）から の回復の経験を分かち合っています。２０２３年現在、世界１３９カ国以上で毎週７１,０００回を越すミーティングを行っています。

NA の回復のプログラムの核心である、１２のステップと１２の伝統に示された原理を、現実生活に当てはめながら、薬物から解放された実りある有意義な生き方を、どう送っているのかをお互いに分かち合っています。その原理をわかりやすく示すと、このようになります。

・問題がある事を認める。
・助けを求める。
・徹底的に自己分析を行う。
・信頼できる人に自分のことを打ち明ける。
・傷つけた人に埋め合わせをする。
・回復を望んでいる薬物依存症の手助けをする。

NA に繋がって

イッチー

こんにちは、アディクトのイッチーです。僕は『処方薬』の依存で『NA』に繋がりました。使っていたのはベンゾジアゼピン系の睡眠薬と向精神薬で、前者を主に使用してました。きっかけは、眠れなくて１錠を服用するところを２錠を飲む事から始まりました。次の日起きたら、スッキリした目覚めを体感することができ「次、寝られない時があったら、またやろう」と思い、これをやめませんでした。また、お酒と一緒に飲むこともしており、向精神薬を飲んで酩酊状態を味わったりと、危険極まりない行為をしていました。

僕が最初に使用した『モノ』は、当時住んでいた児童養護施設で年上の人達から勧められた、１本のタバコでした。最初はムセましたが、２本３本と吸ってるうちに１日１箱吸っている自分がいました。ある時は、お酒を飲んだりと好き勝手していました。２０歳になってからは、仕事で半うつ状態になり精神病院に通院入院するようになり処方された薬を飲んで過ごす事となりました。また並行して『リストカット』をして自殺未遂を図り、それを心配してくれる人達に辛辣な言葉を吐いたり、汚い言葉を吐いたりと、ホントにどうしようもない人でした。薬がなくなると内科を周り処方して貰い服用するを繰り返して罪悪感を微塵も感じずに過ごしていました。

現在３４歳ですが、３０歳の頃まで生活保護を受けていましたが生活費に困り自転車を盗んでリサイクルショップに売ってお金を得ていました。起訴猶予と執行猶予、実刑となるまで繰り返し刑務所に収監されました。そこで医務課のドクターに既往歴を聞かれたり、逮捕される前の生活の事や色々聞かれ、その時に「あなた、薬に依存してるね。お酒にも問題あるし…」と色々言われましたが、なぜか否定の意見を述べる事ができませんでした。知っている人に言われるより、全く知らない人に言われた事で腑に落ちました。そこで今までの生活を振り返りな

がら、刑務所生活を送りました。２０２１年１２月に満期出所をした後、薬の事を使わずに送るには…と考えながら全国放浪をしていました。ネットカフェを転々としながらキレイな景色や海を見に行ったりしましたが、薬を使う事はなかったけれどお酒を止められませんでした。

「これではダメだ」と思った僕は、施設とNAに繋がり、現在もODや再使用をせずに１年半経ちました。これには周りの仲間達からのサポートがあった事、相談出来る様になったのが主な理由です。今までは相談をする、されるが嫌でした。でも、今では普通に出来ますし、されるのも苦ではありません。これには、NAが活かされてるのかもしれないです。「これらは次の人に与えていかないと保ち続ける事が出来ない…」と文献にはあります。
貰える物は貰う、自分からは与えない。与えるなら何か寄越せ！ が昔の考えです。今では考えられないです(笑)

今はNAのサービスをしたりグループに入ったりと奔走しています。分からない事があると周りの仲間からのサポートがあるので大変助かっています。僕も気を引き締めないと、仲間に頼ってばかりではいけないので精進しないとダメですね。
NAで好きな所は、暖かく迎え入れてくれる事で家族みたいでなんかむず痒いです。薬を失わない様に精進し、何故薬を使う様になったかを思い返し、仲間のサポートが出来る様にしたいです。

人間生まれ変わる事は出来ないと思っていますが、人生何回でもやり直せるので頑張ろうと思います。

薬物を使わなくていい一日

コウジ

はじめて薬物を使用したのは２２歳くらいの時、今から約２０年前です。違法薬物を使用するきっかけが「身近な誰かに誘われて」という人が多い気がしますが、僕の場合は覚せい剤に関するルポのような本を読んで興味を持ったことがきっかけでした。
それまでの僕は多少の悪ふざけの延長のような悪さはするが、警察沙汰になるような事はあまりやっていませんでした。ただ漠然とタガが外れるような面白さや快楽を味わってみたい、という願望はあったと思います。それが『生きづらさ』から来るものだ、と気付くのは薬物を使用し始めて約２０年経ってからでした。

話は初めての覚せい剤を使用した時に戻りますが、本を読んだだけで誰かに教えてもらったわけでもないため初使用の時は使用方法をとんでもなく誤ってしまいました。最初の数時間は今まで味わった事のない気持ち良い状態でしたが、途中から幻覚幻聴による被害妄想で自分から警察に助けを求めて逮捕されることになりました。取り調べの刑事さんから「幻覚幻聴の恐怖や逮捕されて自由と職を失う事で覚せい剤の恐ろしさや逮捕される事の辛さがよく分かっただろう」と言われ、それに同意しているフリをしていましたが、本心では留置所の中で出会ったベテラン薬中の人達がうらやましくて仕方ありませんでした。破滅的だろうが何だろうが、シラフで得られない桁違いの面白さと快楽をもっと上手く得られる方法を知りたいと思い、拘留中に先輩薬中から色々と教えてもらいました。
そんな中突然の逮捕に驚いた両親は弁護士を頼み、お金をかけて保釈してくれましたが、保釈３日後には教えてもらった方法でアルミホイルを畳んで覚せい剤を炙っていました。薬物の使用方法は２年で注射に変わりました。

断続的に薬物を使用しながら２回の離婚、２回の服役を経て気が付くと４０歳を超えていました。使用しながらですが、自分の人生を良くしようと生きてきたつもりでした。仕事や恋愛や

趣味に打ち込めば覚せい剤への渇望も薄れていくんじゃないかと考えていましたし、それが最短で自分の人生が良くなる方法だと信じていました。
ワーカーホリックのような仕事の仕方は自分の理想を実現するためであり、決して自分の生き方を狭めるものではないと思っていました。
好きになった女性が居たら、相手が望む事が過剰に気になったり、逆に相手の短所をあの手この手で変えようとするのは、真剣に付き合っているからだと思っていました。
趣味でゲームを始めた時に異常な時間ゲームに取り組むのは、好きな趣味が見つかったんだと思っていました。
どれも自分の人生を良くしようと思って始めて、最初のうちは楽しかったり上手くいったりするのですが、いつの間にか自分が辛くなってしまうような立ち位置に自分から居たり、誰かを傷付ける結果になってしまい、孤独や孤立していたように思います。やめられるものなら覚せい剤のない生活がしたいと思いながら、覚せい剤との付き合いは２０年を超えました。

２０２２年の１２月に覚せい剤を使用した後、自分の今後の身の振り方を考えていました。その時にこれから先何をやっても覚せい剤に行きつく繰り返しの人生なんじゃないか、という漠然とした不安が何週間もぬぐえませんでした。
自分自身で今後どう生きれば良いか分からず、またそんな自分が情けなかったことをよく憶えています。誰にも相談できず何週間も部屋の中で一人で何かを考えているのか、ただ時間を潰しているのか分からない日が続き、最終的に自分から薬物依存のリハビリ施設に相談してＮＡに繋がりました。

ＮＡで仲間の話を聞かせてもらいながら、自分の気持ちに正直になって話をする努力をしていて気付いたことがあります。
僕は仕事でも恋愛でも趣味でも没頭できれば何でも良かったんだと思います。
勉強や仕事に没頭すると周囲から良い評価を貰えます。
没頭すると傷ついた自分の感情や人並みのつまらなさから解放されます。
僕にとって薬物は没頭できる最上級のものでした。

NA につながり様々なことに気付かせてもらいました。
自分が自覚なく破滅的な生き方をしていた事。
アディクトではない人たちと同じような行動(仕事や恋愛)をしても満たされず、焦りや精神的な囚われに追い詰められ、人と同じような満足を得られない原因が自身のアディクション(依存・嗜癖)にある事。
生きづらさを取り除く努力をしていれば薬物を使わなくてもよい一日が始まる事。

今は薬物に対する渇望はほとんどない毎日を過ごしています。
その反面、没頭できるものに追われる毎日に比べるとひどく退屈に感じることも事実です。
でもシラフで自由でありのままの自分で過ごす今日一日は本当に悪くない毎日です。
これからも NA と施設と仲間の力を借りながら薬物を使わなくてよい一日を積み重ねていきたいと思います。

僕と同じように心を閉ざして自分一人で苦しんでいる薬物依存症の方にこの拙い文章が届くことを願っています。
読んでいただきありがとうございました。

出逢いを通して

サトシ

２４才の終わりに自分のことが嫌で堪らず途方に暮れていました。「生きることがしんどい。死ぬことも怖い。」こんなことになるとは思ってもいませんでした。今から３０数年前のことです。

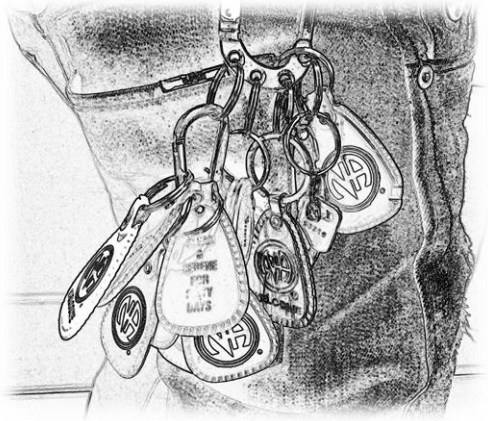
薬代欲しさに借金が返せずに、会社の備品にも手を付け質屋に持って行ったりしてお金を作りました。物を盗む度に、薬を使う度に自分のことが嫌で堪らなくなって行きました。夜、寝る時に天井を見ながら、このまま目が覚めることなく死ねたら楽なのに、と思う日もありました。見つかるとか、捕まるとか、色んな人を傷つけ迷惑を掛けているとかよりも薬を使うためのお金を作ることしか考えられなくなっていました。
　またサラ金の督促状が家に届き、親は許してくれるはずもなく、「そんなに薬が使いたいなら、使って死んでくれ」と言われました。親にそんなことを言わせるまで迷惑を掛けて追い込んでいたのです。自分でも「もうそれしかないなぁ」と感じ始めていましたが結局、生きることも死ぬことも出来なかったのです。

　その後、東京の施設に行くことになり、NA のミーティングに通うことになりました。なかまという人たちに出逢い、初めは俺とは違うというイメージしかありませんでしたが、他人である人たちが自分のことを想ってくれ、「止めろ、駄目だ、ちゃんとしろ」と言われないことが自分の心に響いて行きました。
クリーンが１５年になった頃に離婚して、自分は名古屋で営業の仕事を続けることを決めましたが、ストレスの中、頑張り過ぎてうつ状態になり、手に入れたものがなくなりました。もう一度、一からやり直すには変なプライドが邪魔をしたり、パワーも残っていませんでしたが、自分にはNA しかなかったのです。地元に戻り、なかまと大阪の南部にNA 会場を開きました。プライベートでは両親が育ててくれた息子は２８才になり、一人暮らしで頑張っています。母親は自分が戻ってから３

年後に亡くなり１３回忌が過ぎました。父親と二人で生まれ育った堺市で暮らしていましたが、その父親も昨年他界しました。両親には最後まで心配を掛けてしまいました。今は仏壇に線香をあげて手を合わせています。

かつてお金や地位など目に見えるものを得ることでしか安心が出来ず、自分の欲望を満たすことだけを考えて生きて来た頃には、これで安心という満足感はなく、もっともっと手に入れなければという不安しかありませんでした。本当は自分に自信がなく怖れという感覚を持ち続けているために常に満たされない生きづらさがあったような気がします。そこから逃れるために安易に薬物を使ってしまい、「こんなはずではなかったのに」と出逢う人を傷つけ、依存症になり、なりたくない自分になってしまいました。
自分は薬物を使い続けることで、自分を責める生き方が染み付いてしまいました。だからこそ「十分頑張っているよ」「大丈夫だよ」と自分に声を掛けてあげることの大切さも教えて貰えました。

自分は６０才になった今も、まだまだ回復途上の人間です。色んな人に迷惑を掛けながら、色んな人に助けられながら、自分自身が出逢いの中で今も生き続けられているように、時には誰かの役に立ちながらと思っています。



私とクスリ

-NA に繋がる前と繋がってから-

なほ

少し変わった子でした。小学生なのに万引きがやめられない悪い子でした。でも家では聞き分けのよい子、学校では優等生だったので周囲は私をどんな子と思っていたかは分かりません。

中学生の時、受診した精神科で、医師を前に自分のおかしさを言葉にできず、「寝れない」とだけ伝えたところ処方されたのが睡眠薬マイスリーでした。マイスリーを一気にたくさん飲むと、頭がふらふらして、落ちるようにこんこんと眠ることができる。ブラックアウトを起こすと人が変わったように泣き叫ぶことができる。嫌なこと、苦しいこと、悩んでいること、マイスリーは全部忘れさせてくれるし、発散させてくれる。真面目だから学校は行くし、部活も行く、でも何かあればその夜はマイスリー祭りをする。マイスリーは現実逃避の特効薬であり、毎日を頑張るためのお守りでもありました。

大学に進学したものの、周囲の学生は自分より賢く、面白い、容姿も性格も良い。私なんていらない、現実社会で満たされない心を薬で埋めるようになりました。昼夜問わず OD する。薬がないと不安になり、一日中 SNS で薬を探す。救急車で運ばれては入退院を繰り返し、大学は中退しました。自分をコントロールするための薬に自分がコントロールされるようになっていました。

実家も飛び出し、自暴自棄な日々、死ぬこともできない、帰る場所もない。どうにもならなくて向かった先が NA でした。会場へ行くと仲間が抱きしめてくれました。そのあと入院しましたが、仲間が毎日連絡をくれて、メール配信される「今日だけ」を読んで感じたことをラインで送り合うようになりました。退院の日、「自分のことが書けてるから大丈夫良くなるわ」と言ってくれたことを覚えています。退院後、NA に足を運ぶようになり、仲間の正直な分かち合いに自分の心が揺れる

のを感じ、次第に私もミーティングで話すようになっていました。

“いつだって自分が一番でいたかった。でもそうはいかなかった。スポーツも勉強も上がいた。負けそうになったら足が痛いと嘘をついたし、自信のない試験は言い訳をして休んだ。学級委員や部長をするのは友達がいない自分になりたくなかったから。”

ある日仲間に「あんた自分が思ってるほど価値ある人間ちゃうで」って言われました。その通りでした。ほんとは何の価値もない自分を認めたくなかった、だから薬が必要だった。薬は上手くいかない現実をぼかしてくれるし、上手くいかない言い訳にもなってくれる、とっておきの逃げ道でした。私が薬を手放すにはぐちゃぐちゃした自分の生き方に目を向ける時間が必要でした。

NA に繋がってもうすぐ二年。少しずつ薬に逃げるのではなくミーティングに行く・仲間を頼ることができるようになってきたかなと思います。ありのままの私を受け入れてくれる仲間と出会えたこと、いつだって足を運べるミーティングがあること、ＮＡからもらったあたたかいお守りが今の私を支えてくれています。

これからの私へ、いつでも孤独にならず仲間の中に入っていってね。
自分の受け取ったもの、持っているものを惜しみなく
仲間にグループに差し出せる仲間でいてね。

NA に対する変化

ジョー

初めまして、薬物依存症のジョーです。僕は遵法精神と言うモノが欠けていて、社会で生活をしていたら薬物犯罪はもちろんの事ですが、その他の犯罪も平気で犯してしまいます。その為、１０代の頃に少年院に２回入り、刑務所にも６回服役しました。
ですので感覚が麻痺しているのか逮捕、勾留される事をそこまで厭わず、そうなったらそうなったで構わない！と言う考えでした。

僕が千葉の施設に繋がった事がきっかけとなり、初めて NA に繋がりました。正直、行きたくもないのに行っていたので何の気持ちも抱く事はありませんでした。
その後、また同じ事を繰り返した結果、服役をする事になり、その服役の時に母親が病気になりリハビリ施設に繋がる事になったのですが、NA 以前の問題で場所を転々とする事になり、NA 会場に継続して通うという事をする事ができませんでした。
今、僕は堺に居ますが、ここに来る前は奈良に居ました。奈良での生活の中で僕は NA 会場に継続して通う経験をしました。しかしその時は、嫌々行っていて何も学ぶ事はなく、ミーティング中もケータイでゲームをしたり、会場の外に出て行ったりしてどうやってミーティングの時間を潰すかだけを考えていました。そんな気持ちで通っているのですから、意味のある時間ではなくただただ苦痛なだけでした。

そんな自分が自分の意思でミーティング会場に足を運ぶようになったのは、堺に場所を移してからです。自分は正直に言うと今もミーティングは苦手です。ミーティングは苦手ですが会場に行って NA メンバーに会って色々な話をするのは好きです。それがきっかけとなり少しずつですが、自分の意思で NA 会場に足を運ぶようになりました。
その中で、先行く仲間の経験談を聞いたり、相談に乗ってもらったりしてもらえて、、、NA メンバーとの関係を持てるように

なりました。仲間のおかげで今も会場に足を運べています。仲間に会って少しの時間でも何て事のない話をする事が楽しみで、そのフェローシップのおかげで毎日踏ん張る事ができています。人との繋がりができた事からミーティングにもちゃんと参加するようになれたり、仲間の話をちゃんと聞く事ができるようになっていきました。
先行く仲間の話を聞く中で、僕自身の欠点と同じ悩みを抱えていて、僕が解決できない問題をその先行く仲間は経験をしてきてるので、僕はその先行く仲間の経験談を聞きたくてNAに興味を持つようになりました。僕は人間関係に問題があり、施設の仲間ともトラブルばかり起こしてしまう事が多く孤立していました。そんな中でもNAメンバーはいつも笑顔で優しく迎えてくれて、頑張ってるね！と励まし続けてくれました。この言葉に僕は何度も救われています。面白くない事があり使いたくなった時も、相談をしたらずっと話を聞いてくれました。その事に僕は凄く感謝しています。
僕が仲間にしてもらえて救われ助けられた事を、僕も同じように仲間にしてあげたい！そうできるような人間になりたい！と思い、僕は今、NAの活動に参加させてもらっています。

施設での生活の中にNAとの繋がりや活動が含まれた事で、やり甲斐を感じ、孤独感もなくなりました。今は毎日が充実しています。僕が経験してきた事を今、同じ場所に居る仲間に伝えたい、自分ができる事をして手助けしたい！そう思って毎日、過ごしています。
そう思いながら生活ができるようになってからは毎日に張り合いが持て、今は楽しく毎日を過ごせています。

２０年かあ・・・と思う

なおみ

私がＮＡにつながったのは今から多分２３年前、ぐらいではなかろうか。その頃私は２４歳。
繋がってすぐ、メンバーの男性と恋愛関係に陥り、駆け落ち同然に実家を飛び出し結婚生活が始まった。その時すでに私は妊娠していた。が、息子を産んで半年後には、私はシングルマザーになっていた。自分の回復もクリーンも何もかもよくわからないまま、子育てとミーティング通いが始まった。思えば必死に駆け抜けた２０年だったなと思う。現在のようにオンラインのミーティングのない当時、ベビーカーに子供を乗せて通った。

鬱もひどく、自分のこともままならない中で心底辛かったのは食事作りだった。料理スキルもなく、摂食障害も持っている私は、お菓子だけ食べて過ごしたい時期や食べたくない時期があり、しかし毎食息子にはそれなりの食事を用意しなければいけないのが苦痛でしかなかった。それはここ最近まで続いた。本当に苦しかった。

それでもミーティングには通った。当時まだ子供を育てながらＮＡに来る女性メンバーはほとんどいなかったように思う。何もかもが手探りで、必死だった。
ミーティング中、私が話す時、その間息子と遊んでくれる仲間もいて、ずいぶん助けてもらったなと思う。コンベンションやギャザリングにも息子を連れて行き、可愛がってもらった。

息子が少し大きくなってきて、ミーティングの内容がわかるようになってくると、会場近くの民間の保育所にお金を払って預かってもらうようになった。痛い出費だったが背に腹は代えられなかった。だが息子が４年生になったとき、「僕もうミーティングに行きたくない、留守番する」と言って、それ以来ついてくることはなくなった。

その後も私のミーティング通いは続き、息子は中学生、高校生と成長していった。高校生の時は突然今までやったことのない厳しいことで有名な、あるスポーツの強豪校に推薦で入ることになった。２回ほど辞めたいと言ったこともあったが、息子は３年間やり通した。

その頃だった。「普通のお母さんがよかった。こんな薬物依存症のお母さん嫌や。友達にも言われへん」「小さい頃、僕が今日はミーティング行かんといてって言うたのにお母さん無視して行った。家にいてほしかった。いてほしい時にいてくれなかった」などと泣きながら訴えられた。
ミーティングへ行くことが、自分のため、ひいては息子のためと思っていた信念が揺らいだ。私は息子に多大な負担を強いていたのだ。情けなかった。自分のやってきたことは何だったんだろうと思った。もしもう一回子育てをやり直せたらどうするだろうと思う。それはわからない。でも多分同じことをするんじゃないかと思う。なんとなく。

そんな息子も現在大学生で、目下就活中、卒業したら一人暮らしをするという。息子といられるのもあと１年ちょっとだ。辛かった食事作りも、毎日ではなくなった。
息子は今何を思っているだろう。息子がいなくなったら私はどうなるだろう。そう思うと怖くなる。やだな、さみしいなと思う。と言うか、控えめに言って発狂するんじゃないかと思う。２０年一緒にいたものがいなくなるのだ。すごい変化だ。私は変化にめっぽう弱い。だがしかし、生きているということは変化の連続だ。今日という日は誰にでも新しく、そして不確実だ。だからこそ、今日だけという言葉、それからミーティングや仲間が今日もまた私にとって必要なのだろうと思う。そこはＮＡに繋がったあの日も、そして今も、何も変わってないなと思う。

振り返ると、大変だったがめちゃくちゃ面白い２０年だった。息子とともに駆け抜けた２０年だった。息子よありがとう。頑張れよ。

用語解説

※　アディクション、アディクト　※

ある事を特に好んでする嗜癖を指します。人が何かにはまってしまい、それに溺れてしまう状態のことであり、止めたくてもやめられない病気。進行性で治ることがなく、使うのをやめない限り死に至る病気。その病気である人の事を『アディクト』と呼びます。

※　12 ステップ　※

個々のメンバーがアディクションから回復する為の指針となる新しい生き方がシンプルに書かれたプログラムの事です。

※　12 の伝統　※

NA メンバーがミーティング会場の運営や様々なサービス活動を行う際の指針としているものです。

※　グループ　※

２人以上の NA メンバーが集まって、定期的に開催するミーティング会場の運営を行っている集まりです。

※　フェローシップ　※

ミーティング以外での仲間との交流の事を指します。大規模なイベントもあれば、仲間と一緒に食事に行くなど様々な交流があります。

NA のミーティングに参加するには

薬物使用を止めたいと望む方なら、誰でもミーティングに参加できます。合法、非合法に関わらず、アルコールも含めて、薬物に問題があると感じている人なら誰でも NA は歓迎します。

アノニミティ（匿名性）について

参加者は名前を明かす必要のない代わりに、いわゆるニックネームを用いて NA での活動に取り組んでいます。
匿名性の基本的な前提とは、アディクトが法的に、あるいは社会的に好ましくないような影響を持つことなく、ミーティングに参加できるためのものです。これは NA のミーティングに初めて行ってみようと考えているアディクトにはとても大切な配慮です。

NA ミーティング

NA での回復への基本的な取り組み方は、一人のアディクトが他のアディクトを助けようとすることで、治療的な価値があるという考え方です。メンバーは、経験や薬物依存からの回復について話し合うために、NA ミーティングに参加します。ミーティングには一般の方も参加できる（発言はアディクト本人のみ）「オープンミーティング」と、アディクト本人のみが参加できる「クローズドミーティング」があります。NA ミーティングやその他のサービス活動は全て、メンバーからの献金によってのみ成り立っています。

ドラッグに問題はありますか？
合法・非合法・処方薬など、種類は問いません。
ナルコティクス アノニマスに連絡を。

初めてミーティングに参加される際は
フォンラインから突発的な会場休止がないかを
確認してからお越しいただくようお願い致します。

●フォンライン（会場休止情報案内）●
TEL： 080-5703-4121
（対応時間/9：00～21：00）
Mail： na.kansai.info@gmail.com

●関西エリア　ミーティング会場案内●
https://najapan.org/meeting/kansai

★NA Japan リージョン　HP★
https://najapan.org/

★NA 関西エリア★
https://najapan.org/kansai/

●郵送物・お手紙の送付先●
〒540-0004　大阪府大阪市中央区玉造 1-4-14
NA 関西エリア　宛

●PI コミティ（関係各所への広報担当）へのお問い合わせ●
Mail： kansai.area.pi@gmail.com